

2016 日本水ロケットコンテスト和歌山大会

- 主 催：日本宇宙少年団 和歌山分団
- 共 催：一般財団法人リビングソーシャルプロジェクト・(株)和歌山リビング新聞社
- 後 援：和歌山県教育委員会・和歌山市教育委員会・テレビ和歌山・和歌山放送
わかやま新報
- 協 力：公益財団法人日本宇宙少年団・和歌山マリーナシティ
- 協 賛：(株)紀陽銀行・紀陽興産(株)ほけんの相談室・(株)サイコー
NPO法人はまゆう和歌山・(株)和歌山印刷所
- 日 時：6月11日(土) 9:00~16:30(昼食11:30~13:30)
- 場 所：水ロケット製作/和歌山市社会福祉協議会あいあいセンター3階
水ロケットコンテスト/マリーナシティ第3駐車場

毎年恒例行事となっている「日本水ロケットコンテスト和歌山大会」が今年で7回目を迎え、本年も無事終了しました。一般参加者32名(欠席者1名)、YAC分団員25名、合計57名の子ども達と保護者、そしてスタッフには桐蔭中学科学部生徒21名、顧問の藤木先生、教育リーダー1名と弊社からは6名が参加し、総勢120名以上の方が集まりました。

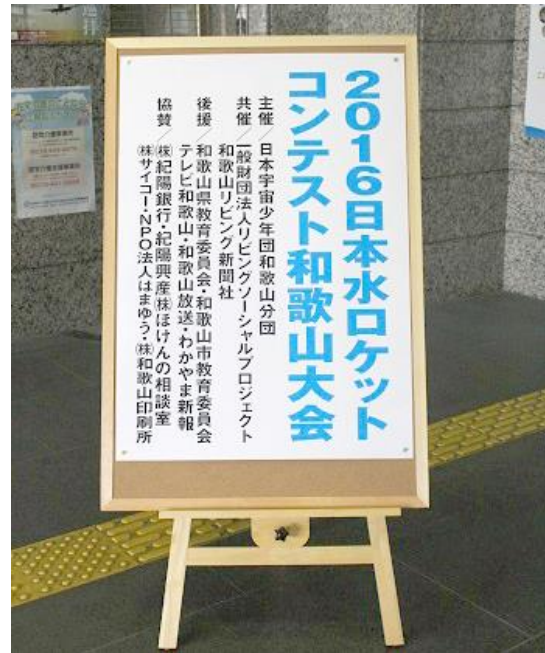
午前中は桐蔭高校科学部副部長の加納くんが水ロケット製作をプロジェクトリーダーに基づき指導して行きました。小学1年生~中学2年生までの子ども達が一生懸命ペットボトルを切り貼ったりしながら、また、お父さん・お母さんにもお手伝いしてもらいながら世界に一つしかないペットボトル水ロケットを完成させました。最後に全員でゴミ拾いや机・イスを片付けて子ども達と桐蔭中学科学部の生徒、藤木先生も入り集合写真を撮ってロケット製作が終了しました。

午後から場所をマリーナシティ第3駐車場に移動し、午後1時30分からコンテストが始まりました。子ども達は自分で作った水ロケットを発射台に設置し、水しぶきをはきながら飛んでいく水ロケットを見ながら興奮していました。1人2回ずつ打って一番遠くまで飛んだか争う飛距離を行いました。

一番遠くまで飛んだのはYAC分団員の和田愛華さん(小学6年生)123.7mでした。全員2回ずつ打上げ、最後に入賞者の表彰式。1位から3位まで表彰状と副賞を授与して、怪我もなく無事終了しました。この活動を通して、子ども達の笑顔や「好奇心」「探究心」「匠の心」が見えたように思います。後援いただきました行政・企業、そしてご協賛賜りました企業へ厚くお礼申し上げます。また、これからも次世代の日本を担う青少年の人材育成・人格形成に力を注いでいきたいと思っております。



吊看板と日本宇宙少年団 団旗と和歌山リビング新聞社の社旗



水ロケット製作の1階エレベーター前、主催・共催・後援・協賛企業の立看板



主催者の挨拶 日本宇宙少年団 竹原副分団長の挨拶



水ロケット製作進行役 桐蔭高校科学部副部長 加野君



参加者と保護者・桐蔭中学生 製作風景 1



参加者と保護者・桐蔭中学生 製作風景 2



お父さんもお手伝い



お父さんおも手伝い



お母さんおも手伝い



お母さんおも手伝い



桐蔭高校教諭の藤木先生も指導



桐蔭中学生も指導



水ロケット製作を真剣勝負



YAC分団員の和田愛華ちゃんも真剣に製作



製作終了し、参加者と桐蔭中学科学部・藤木先生・加納君の集合写真



水ロケットをランチャー（発射台）にセット。いよいよコンテスト開始だ！



「5・4・3・2・1 発射」の掛け声と共に水しぶきを
きはきながら大空へ飛んでいく！



1位 和田愛華さん（小学6年生）



2位 花木成悟くん（小学1年生）



3位 城本大鷲くん（小学1年生）



打上会場の立看板



打上会場の吊看板